

論文内容の要旨

報告番号		氏名	林 修一郎
Variation in fracture risk by season and weather: A comprehensive analysis across age and fracture site using a National Database of Health Insurance Claims in Japan. (和訳) 季節と天候による骨折リスクの差：日本のレセプト情報データベースを用いた、全ての年齢・部位に関する包括的な分析			

論文内容の要旨

骨折のリスクの季節による違いに関する研究は、これまで、特定の年齢や部位に関して行われたものが大半であることから、本研究では、骨折のリスクの季節による違いを、全ての年齢や部位について明らかにすることを目的とした。

特定健診・レセプト情報データベース(NDB)を用いて、関東地方1都6県、人口4200万人余の地域全体の、健康保険による受診から、3年間の骨折の症例を収集した。508,051件の骨折症例が同定され、これらを、0-19歳、20-39歳、40-64歳、65-79歳と80歳以上の5つの年齢階級に分けて分析した。

骨折のリスクは0-19歳の小児では春や秋に高く、65-79歳と80歳以上の高齢者では冬に高かった。最も顕著な例外として、つま先の骨折は夏に多かった。橈骨端骨折と、大腿骨頸部骨折のリスクは、その日の気温や降雨との関連があったほか、前日より温かくなった日には高まっていた。

骨折のリスクは子どもと高齢者とで、また、つま先と他の部位の骨折とでは異なる季節性があることが分かった。こうした知見は、骨折の疫学を明らかにし、予防策の検討や、医療資源の配分を行う上で有用である可能性がある。